陳情第２号

陳情人 [redacted]

国の責任による「２０人学級」を展望した少人数学級の前進を求める陳情

１　陳情の要旨

次の趣旨に沿って、国に対する意見書を採択してください。

（１）　子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に２０人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員増と教室確保を国の責任で行うこと。

（２）　「２０人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、標準法を改正し教職員定数改善計画を立てること。

２　陳情の理由

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業中や学校再開への移行段階で「３密」を避けるため、クラスの１／２程度で授業ができる分散登校や時差登校が行われました。２０人程度で授業を受けた子どもたちからは「いつもより勉強がよくわかった」「手を上げやすかった」などの声が聞こえ、教職員からは「ゆとりをもって子どもたち一人一人と丁寧に関わることができた」、保護者からは「感染から子どもを守るには２０人くらいがいい」などの肯定的な声が上がりました。２０人で授業を受けられるようにすることが感染拡大を防ぐとともに、豊かな学びを実現することにつながることが実感されました。

学校を再開するに当たり、感染拡大防止対策として教室の「密」を避けるための少人数学級・授業、学校規模の縮小などが必要です。そのためには、教職員を増やすことが不可欠です。現行の４０人学級では、子どもたちの命と健康を守ることができません。教室に「社会的距離」を確保するには、２０人程度で授業をできるようにすることが必要です。

今、「２０人学級」を展望した少人数学級の前進が求められています。

さらに、教職員も４０人学級で感染防止対策をしながら、授業時間の確保に追われている学校現場の状況があります。「子どもも教職員も、くたくたになっている」「消毒作業など過重な労働」「感染拡大を招いてはならないという精神的な負担」など、悲痛な声が上がっています。

様々な課題を抱えた子どもたちが増える中、一人一人に行き届いた教育を保障するため、全国の多くの自治体が独自に少人数学級を実施していますが、国の責任による少人数学級は小２で止まったまま、８年連続で見送られています。

コロナ禍の中で「２０人学級」を展望した少人数学級の前進は圧倒的多数の父母・保護者と教職員、地域住民の強い願いです。それに応えて自治体独自の少人数学級は、今年度も着実に前進しています。しかし、国の責任による施策ではないため、自治体間格差が広がっていることも厳しい現実です。教育の機会均等を保障するためには、地方に負担を押しつけることなく、国が責任をもって少人数学級の前進とそのための教職員定数の改善を行うことが極めて重要です。